



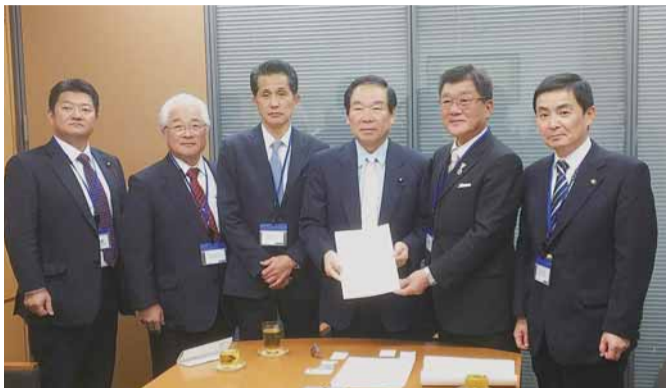
発行人 藤井 信吾

◆発行 取手新時代をひらく会
◆発行責任者 池田 徳光

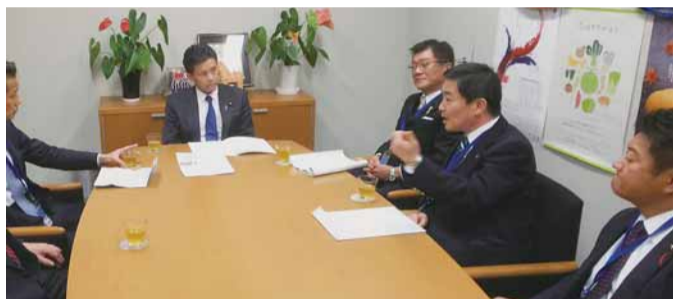
◆URL http://www.fujii-shingo.com E-mail:hirakukaishingo@ybb.ne.jp
◆事務所 〒302-0004 取手市取手2-14-24 竹内ビル2階 TEL&FAX:0297-72-5616



石井啓一国土交通大臣への陳情活動



額賀福志郎衆議院議員への陳情活動



上月良祐参議院議員への陳情活動

藤井市長は10月24日に茨城県市長会副会長に就任し、早速県レベルの活動として県市長会、県町村会、県市議会議長会、県町村議長会とともに国会への陳情を行いました。

11月20日、上月良

祐参議院議員への地方
税財源充実確保の陳
情活動、同日額賀福志
郎衆議院議員(自民党
税制調査会小委員長)
へ同内容の陳情を行
いました。

11月13日、藤井市
長と竜ヶ崎市長は国土
交通省と関東地方整
備局を訪問、石井啓
一国土交通大臣と面会
し、国道6号の早期4
車線化の陳情を行いま
した。

藤井市長の多様な政治活動

茨城県市長会副会長に就任

～取手創年市民大学での対談～

1月21日、取手市創年市民大学特別講座「まちを楽しむ」にて俳優山本學さんとの対談



俳優山本學さんとの対談

～「駅前にぎわいフェスタ」での取手のPR活動～

藤井市長は、取手市内での様々なイベントにおいても、自らPRの先頭に立っています。

「駅前にぎわいフェスタ」は、10月8日、取手ウェルネスパークにて開催され、市観光協会、取手商工会、周辺の各施設が連携して開催した催しです。藤井市長は、本催しでもPRの先頭に立ち、取手のPRキャラクター、絶妙法師とともに人目を集めていました。



絶妙法師とのツーショット

～大相撲取手場所開催決定～

平成30年4月24日、取手グリーンスポーツセンターにて大相撲取手場所が開催されることとなりました。

写真は、開催決定時の記者会見の様子。



立浪親方と藤井市長の記者会見

「友情」(秋桜のパラード)取手公演に参加して

劇団絵生(えき)が制作し、これまでに18年570回を超えるロングラン公演を行っている劇、「友情」を取手で開催したいとの申し出が本年5月にありました。

この劇のあらすじは、転校してきた白血病にかかった中学3年の女子生徒(あゆみちゃん)を同級生みんなが励まし、生きるとはどういうことか、悩みを共有し、友情の尊さを感じながら確かめ合うというものです。抗がん剤の副作用によって髪の毛が失われていることを恥ずかしく思っている同級生を励ますため、クラスメイトが男女を問わず、頭を剃ってこれぞみんな一緒というシーンは、あまりにも劇的で見ていて涙が止まりません。

8月26日(土曜日)に取手市民会館で行われた公演では、熱血の担任教師を水戸市出身の渡辺裕之さんが演じられたわけですが、私にも、あゆみちゃんの主治医である岡野医師の役で友情出演の依頼があり、白衣を着て医師として、あゆみちゃんやお父さん、お母さん、看護師さん等に言葉をかける大事なお役を頂きました。中学生の劇団員には、藤代中学校3年の大久保静香さんも出演していることもあり、私も、相応に気合を入れて、みんなで作り上げる芝居の緊張感・充実感を削ぐことがないように一生懸命、セリフを覚え、堂々とこの役を務めさせていただきました。

切符を買って当日応援をいただいた皆様、本当にありがとうございました。

さて、白血病には疎かった私ですが、北海道の夕張や岩見沢方面で献身的に地域医療を支えて来られた村上智彦医師が急性骨髄性白血病に罹り、骨髄移植を含むあらゆる治療も空しく本年5月に他界されました。その絶筆となった「最強の地域医療」ベスト新書、村上智彦著を読みみました。医師の立場で冷静に高齢者医療のおかしさや歪みを解説してくれています。また、白血病治療のプロセス(高度無菌室での生活など)が詳細に書かれていて、読んでいて痛いという思いがいたします。この本のあとがきは、「最強の地域医療とは、地域住民の愛着、覚悟、物語で支えられる医療やケアのことであり、専門家や行政が与えてくれるものではありません。」という言葉で締めくくられています。

取手市長 藤井信吾



岡野医師役の藤井市長



劇団絵生(えき)の皆さんと

第26回川サミットin四万十に参加して



四万十川源流点に立つ

高瀬沈下橋で清流を体感

平成24年には、取手市において第21回川サミットを開催し、川の恵みと川との共生について考える有意義な機会となりました。白山小学校児童による利根川をモチーフとして独創的なレベルの高いオペレッタの演奏など昨日のことに思い出される所々です。

四万十川は、高知県高岡郡津野町の不入山（いらずやま・1336メートル）を源として、S字を裏返したような形状で蛇行を重ねて多くの支流を集めて四万十市で太平洋に注ぐ流路延長196キロの大河です。その特徴は、日本最後の清流との別名があるようにダムもなく、近代的、人工的な護岸工事がなされておらず、森林の間を川の流が蛇行し、季節、雨量によって川幅も流量もダイナミックに変化する昔ながらの表情豊かな川であることです。このような自然環境を人々が抗うことなく受け入れ、様々な工夫をしながら川漁師などの生業を成り立たせてきていることは貴重なことと言えます。

四万十川流域には現在も、60ほどの沈下橋（増水時には川の中に沈むこ

とを前提とし流木等の妨げとならないよう欄干がない）があり、生活道として流域住民に頻りに利用されています。

さて、貴重な自然を守るため、四万十川流域の自治体は四国地方整備局、高知県と連携して、環境保全のための努力が続けられています。四万十川下流には汽水域が広がっていることもあり、220種類もの水生生物が生息しているそうです。とはいえ、アユ冷水病の影響等から20年ほど前には年間1千トンの漁獲高があったアユも今では50トンほどに激減しているなど課題もあります。

西土佐では、川も、道も、山合いを蛇行しています。時間に余裕のある時にじっくり訪ねられてはいかがですか。

取手市長 藤井信吾

「レディス藤の会」の集い開催

10月20日「レディス藤の会」の集いがあり、取手地区、藤代地区合わせて約60名の女性支援者が集まり藤井市長との懇談が行われました。

昼休みを利用して出席した市長からは「取手新時代をひらく会」が発足して今年でちょうど10年目を迎えたことに触れ、「レディス藤の会」の皆さんのこれまでの温かい支援に感謝の言葉が述べられました。

市長からは次のような市政報告がありました。

◎ 10月14日にJR東日本のダイヤ改正があり、上野東京ラインの朝の拡大枠5本が全て常磐線に割り当てられるという画期的な改正がありました。また中距離列車の本数が上下34本から64本まで増えたこの好機を徹底活用して、取手の発展につなげたいと決意を新たにしています。

◎ 取手市は平成28年4月に「とりで住まいる支援プラン」を制定して取手市内に家を建てる方に便宜を図っています。この制度を利用して住宅取得補助を受けて定住された方がこの2年間で予想以上の約100戸に達しました。若い世代の人達が住んでいただける街づくりへの大きな成果だと思っています。

◎ 藤代駅北口広場の改修工事が10月下旬から着工されます。連絡階段の増設や照明、防犯カメラの設置により、来年8月には安全で便利な駅前広場に生まれ変わる予定です。

◎ 住む人のいなくなった空き家を市で管理できるような体制を作る計画が現在進んでいます。銀行等の機関との連携も視野に入れての空き家対策に取り組

みます。

報告を聞いた後は市長との歓談を通じて交流を深めました。

今年、「取手新時代をひらく会」が発足して10年目の節目でもあり、市長夫人藤井めぐみさんによるアコーディオン演奏というお楽しみ時間が設けられました。

いよいよめぐみさんの軽快なアコーディオン演奏が始まると、会場が一気に華やかさを増しました。そしてめぐみさんの友人大日向美由紀さんの声楽が加わると、より優雅な演奏会となり皆さんうっとりとした表情をみせました。最後にめぐみさんのアコーディオンに合わせて参加者全員で「上を向いて歩こう」「ふるさと」を合唱すると、アコーディオンと参加者の歌声がきれいなハーモニーを奏でていました。

瞬く間に時間が過ぎ、また来年の再会と、さらに多くの参加者が増えることを期してお開きとなりました。

「レディス藤の会」
副会長 池田加代子



参加者の集合写真

「取手新時代をひらく会」

会員懇親旅行記

藤井市政10周年を記念して会員の懇親旅行が実施されました。その概要をレポートします。今回の懇親旅行は、藤井市長を支えるひらく会会員有志による「サービスマン日本」となった福島県母畑温泉「八幡屋」への1泊2日のバス旅行で、会員相互慰労とさらなる交流を深めるために企画された。

紅葉の見頃となった11月17日取手市役所を8時に出発、取手駅前、藤代庁舎前を経由して総勢23名のバス旅行となった。

常磐道谷田部ICより高速道路を経由して笠間市にある映画「永遠の0」の撮影現場ともなった「筑波海軍航空隊記念館」に立ち寄り、館員の説明による若き海軍特攻隊員の悲劇のエピソードに涙して再び常磐道に入り、いわき市の東日本大震災の復興状況を車中より視察後市内のドライブインで昼食となった。歌手美空ひばりのヒット曲「乱れ髪」に歌われた「塩屋の岬」灯台を見ながら



あぶくま洞探索



母畑温泉「八幡屋」玄関集合写真



夕食会場にて

一路磐城道路を経て鍾乳洞「あぶくま洞」の探索を行い、夕方目的の母畑温泉「八幡屋」に到着した。

到着後は、山中の温泉宿とは思えない豪華なエントランスと礼儀正しい出迎えを受けて早速待望の温泉へ直行となった。大浴場をはじめ中国福建省から運んだという40トンの大石をくりぬいた露天風呂と温泉らしい肌触りの泉質を堪能することができた。

温泉の後は、サービスマン日本にふさわしい豪華な食事と参加者一同の懇談により懇親を深め、カラオケにより隠れた才能を発見する機会もなかった。

翌朝は、品ぞろえ豊富な朝食バイキングで食べ過ぎのおなかを抱えながら旅館の従業員・中居さん総出の見送りを受けて「八幡屋」を出発した。丁寧なサービスマンと施設の豪華さ、心のこもった食事にも満足いく噂通りの「日本一」を体感した一泊であった。

一道路中の見事な紅葉に見入りながら山本不動尊に参拝後、袋田の滝「を」目指した。水量も程良い袋田の3段滝は1段目の水縞模様の絨毯の壁を満喫、トンネル内レベータを使用した2段目、3段目を一望できる展望台からの絶景を目にした。紅葉を画面の手前に配し、白波で描いた幾筋の壁紙を背景に年に数日しか見られない絶妙の構図を写真と網膜に収めることができた。

目の保養の後は、リンゴ狩りが待っていた。常陸太田は近年リンゴの産地として名声を高めており、定期的にリンゴの密が入り始めた絶好のリンゴ狩り日和となった。帰り路は、日立おさかなセンターと友部サービスマンエリアに立ち寄り家族・友人へのお土産を調達して無事取手に帰り着いた。この度の懇親旅行は、会員相互の懇親がより深まり楽しいひと時となったことは企画の大きな成果であった。

「取手新時代をひらく会」 幹事長 池田徳光

編集後記

51号は、多忙な市政に加えて、茨城県市長会副会長に就任された藤井市長の多様な政治活動の紹介を中心にできるだけ写真を多く使用した構成にしております。また、藤井市長を支援する「取手新時代をひらく会」の活動のイベントを2件紹介し、しんご通信購読者の皆様に会への理解と、集いなどのイベントへの参加のお誘いになればと考えています。

ご意見・ご連絡等は、池田へ頂ければ幸いです。

編集長 池田徳光 (FAX 0297-83-6108)